

外部評価委員会 報告

OISTキャンパスにおける実地評価 2019年11月7日－8日
ピーター・グルース学長兼理事長への報告 2020年1月6日

外部評価委員会委員長 オラフ・キューブラー

外部評価委員会



■ 議長：オラフ・キューブラー教授
スイス連邦工科大学
チューリッヒ校元学長



■ ■ デビッド・ボルティモア教授
カリフォルニア工科大学生物学教授



■ ピーター・チェン教授
スイス連邦工科大学チューリッヒ校
物理有機化学正教授



■ アーサー・エカート教授
オックスフォード大学数学研究所
量子物理学教授



■ クラウディア・フェルサー教授
マックス・プランク固体化学物理
研究所所長



■ マーティン・グロチェル教授
ベルリン・ブランデンブルク科学・人文
科学アカデミー(BBAW) 会長

外部評価委員会

- ノーベル賞受賞者 2
- 大学の元学長 4
- 元または現職の研究機関のトップ 5
- 元または現職の大学の副学長 2



■ 川合眞紀教授
日本化学会会長



■ ロバート・ペリッヒ博士
スイス連邦工科大学チューリッヒ校副学長
(財務担当)



■ ■ フィリップ・シャープ教授
マサチューセッツ工科大学センター所長



■ 施春風教授
シンガポール国立大学(NUS)教授
KAUST元学長



■ シャーリー・ティルマン教授
プリンストン大学元学長
アメリカ細胞生物学会元会長

沖縄 科学技術 大学院大学



沖縄に真に国際的で世界トップレベルの科学技術大学院大学をつくるという、日本政府による大胆な構想



世界トップレベルの研究大学院大学、ロールモデルになるというミッション



現在の教員80名体制では、OISTは世界の教育市場で競争力を持つために必要なクリティカルマスに全く達していない



成功に向かう道筋は明らかであり、実質的成長が必要

活発な成長 段階の基礎



美しく機能的なキャンパス、最先端で整備のいき届いた研究インフラ



外部評価委員会は、周りを鼓舞するリーダー、エネルギー溢れる実行者であるピーター・グルース博士を学長兼理事長に任命したことを称賛する



OISTにおける研究展望委員会（2017年）はOISTの成長に重要な7つの研究分野を提案



プロボストおよびチーフ・オペレーティング・オフィサーの役職を新設・任命、幹部職員の専門化、強力な支援を提供する運営管理

戦略計画

作成 必要性



今後10年間で規模が2倍になると計画されている成長率を考慮すれば、戦略計画が必要であることは間違いない



戦略計画は、戦略担当シニア・アドバイザー、ケン・ピーチ主導の下、大学院大学全体の協力により作成された



積極的な参加およびオーナーシップ：実行責任者は作成開始当初から参加



外部評価委員会は、OISTの包括的な戦略計画作成プロセスと貢献者全員の明確なコミットメントを称賛する

戦略計画 2020 – 2030

一貫性
完全性
現実的



主要目標：2033年までに120名の卓越した教員を採用・統合し、OISTにおける研究展望委員会が提案した研究分野に毎年10ユニットを新設



並行して：生産性および機能性を担保するため、研究設備と支援、教育プログラム、運営管理サポート、技術移転とイノベーション・オフィス、コミュニティ支援を拡大



OISTの建築コンセプトを最大限に活用した組織構造を構築



外部評価委員会は、戦略計画を強く支持し、予算要件の現実的なアセスメントを称賛する

戦略計画の実行：

予算配賦：
長期的
短期的
視点



持続的な成長を続ける機関は、安定した長期の資金調達から恩恵を受ける（教員採用、ハイリスク・ハイリターンの研究、機器と消耗品のタイムリーな提供）



外部評価委員会は、複数年予算プロセスの基盤として何らかの意思表示を得るというOISTリーダーシップの目標を強く支持する



複数年の年間予算配賦は、目的の実現と（合意された）戦略目標の達成に基づく合理的なプロセスに依拠



外部評価委員会は、予算配賦の指針となる指標の基準を政府と検討することを推奨する。基準ベースの予算配賦の有効性が証明されれば、日本のモデルとなり得る